

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第57号 (2011. 11. 30)
事務局 川西地区自主防災会

三豊市立豊中中学校 防災訓練

1 日時 平成23年11月6日(日) 9:00～

2 ねらい

- ・身(心)体能力の高い中学生に、防災・減災の技を研さんし、将来にわたっての危機管理能力を育成する。
- ・大災害時において、地域防災の戦力として技能を身につけ活躍することをめざす。

3 活動内容

- ・各学級単位で1～9の活動内容を体験する。(各15分)



活動内容 (指導者)

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 土のう作り | (上高野) |
| 2. 避難経路マップ | (川西) |
| 3. バケツリレー | (川西) |
| 4. ロープワーク | (上高野) |
| 5. ロープ投げ | (川西) |
| 6. 応急処置 | (川西) |
| 7. 担架運搬法 | (上高野) |
| 8. AED・心肺蘇生 | (JRC) |
| 9. dERU | (JRC) |

★ 炊き出し (上高野)

おむすび&豚汁です。
生徒会役員及び学級代表2名が釜の
管理及び配膳等で活躍しました。

4 参加者

- (1) 中学生 311名 (2) 職員 35名 (3) 豊中町上高野地区自主防災会 37名
(4) 丸亀市川西地区自主防災会 15名 (5) 日本赤十字社香川県支部 5名

総計 403名

5 当日の日程

9:00 ～ 運動場に集合(準備物等確認)

9:20 ～ 訓練開始式

- ・ 校長先生の言葉
- ・ 指導者紹介

(日本赤十字社香川県支部 大林さん 丸亀市川西地区自主防災会 岩崎さん
豊中町上高野地区自主防災会 中嶋さん)

9:30 ～ 訓練開始 *炊き出し係(新旧生徒会役員+各学級代表2名)

各活動15分×9か所=2時間15分

*クラス単位でローテーション

12:00 ～ 炊き出しの学級配布数確認および食事

12:20 ～ 訓練終了式

- ・ 指導者講評(川西地区自主防災会 岩崎 正朔)
- ・ 生徒代表感想(生徒会 安藤隆之亮)
- ・ 校長お礼のあいさつ

12:30 後始末・・・テーブル、椅子を運動場トイレ入り口付近に回収

6 体験活動の様子

豊中中学校 防災訓練

1. **土のう作り** 詰めすぎ注意！ メチャ重いぞ？



6. **麻袋処置** 三角巾のつけ方？ ひじが？



2. **避難経路マップ** 被災地域を避ける道は？



7. **担架運搬法** 身近なものを使い簡易担架



3. **バケツリレー** バケツの正しい持ち方は？



8. **AED・心肺蘇生** 合図の笛に合わせて1・2・3



4. **ロープワーク** ヒモの回し方が分からないよ？



9. **dERU** 東日本大震災でも活躍した！



5. **ロープ作り** まずは真直ぐ、距離を合わせて！



炊き出し **おむすび&豚汁**



開始式

指導者から挨拶をいただきました。



左側 地元上高野地区防災会
真中 丸亀市川西地区防災会
右側 日本赤十字社香川県支部

中嶋さん
岩崎さん
大林さん



終了式

体育館にて実施しました。川西地区自主防災会の岩崎さんから講評をいただきました。

訓練は 真剣に！ひたむきに！
ここがまず基本であり、重要です。
これを常に大切にしてください。

《生徒の感想から》

防災訓練がありました。東日本大震災の影響で、防災意識が高まったり、50年以内に大きな地震が起きる可能性が9割だったりと、今日の訓練はこれからの生活においてとても意味あるものだったと思います。もしも、災害が起きた場合には、今日した訓練全部ができるわけじゃないかもしれないけど、自分でできることを冷静に考えて、一人でも多くの人の命が救えるように、また、二次災害が防げるようにしたいと思いました。〈A男子〉

私が一番心に残ったのは「ロープ投げ」でした。見ているときはとても簡単そうでしたが、実際にやってみると結構難しかったです。でも、いざとなったら救助しなければなりません。何年後かに、「南海地震」が起こると思うととても怖いです。今日学んだ体験を思い出し、知恵を絞って多くの命を救えたらいいと思いました。〈B女子〉

南海地震が近いうちに来ると言われている。そういうことから、今回の体験はしっかり学ぼうと思い取り組んだ。どの体験も初めてで、基本的なことがよくわかった。指導者の方に感謝すると同時に、もし災害が起こったら、率先して私たちが仕事をしたい。〈C女子〉

7 成果と課題

- 日本赤十字香川県支部、丸亀川西地区自主防災会、上高野地区自主防災会、はなみずきの協力を得て、15分ずつではあったが、9つの体験ができたのはとてもよかった。
- 活動を通して、生徒たちの防災に対する意識・技能が高まった。
- 生徒会役員が経験を生かして、炊き出しの活動では中心になって活躍した。
- 各クラスの委員長がリーダー性を発揮して、クラスをまとめながら、9つの活動を効率よく体験することができた。
- 映像などで見ることと実際に体験することの違いは大きく、生徒自身に生きた体験ができた。
- 訓練中に、真剣味に欠ける生徒が数名見られた。訓練の意味をしっかりと自覚した上でもっと真剣に取り組ませるようにしたい。
- 防災訓練の大部分については、外部の団体の皆様の厚意によって準備段階からお世話になった。次回からは、学校中心で実施できるようにしたい。

中国陝西省青少年交流団との合同防災訓練から子どもたちが学んだこと

丸亀市立城辰小学校 教頭 小川 忠司

1. 合同防災訓練開催までの経緯

四川大地震の震源地である四川省に隣接し四川大地震を経験している陝西省西安市では、防災対策の進んでいる日本の防災訓練を子どもたちに体験させ学ばせたいという願いがあったようだ。そこで、2回目の訪日となる今回、ぜひ日本の小学生と防災訓練をしたいという要請が県の国際課に寄せられ、国際課から本校に合同防災訓練の打診があったのが、今年の1月であった。

最初の計画では、5月に約250名の子どもたちと合同防災訓練を行う予定であったが、3月11日の東日本大震災の関係で、一時実施が見送られた。しかし、再度交流団を組織し、23名と参加する子どもの数は少なくなったが、11月15日に合同防災訓練を開催することとなった。

2. 合同防災訓練実施までの取組

なにしろ、外国の子どもを迎えて交流した経験がないため、どのような取組をすればよいか、また、どんな点に配慮が必要かなど、あらゆることが手探り状態であった。しかし、陝西省の子どもたちにとっても、本校の子どもたちにとっても有意義な訓練になるよう様々な取組を行った。

(1) 中国語会話教室

せっかくの交流の機会なので、少しでも交流が深められればと思い、中国語会話教室を実施した。講師は、国際交流員など3名の中国の方をお願いし、9月から毎週1時間、計9時間の中国語会話教室を行った。講師の方自作の簡単な中国語会話のテキストをもとに行った。日本語にはない声調や発音に四苦八苦しながらも、楽しみながら中国語会話を学んでいった。

(2) 歓迎の準備

はるばる中国から来られるので、歓迎の気持ちをしっかり伝えたいと考えた。本校の子どもから陝西省の子どもたちへのプレゼントには、日本らしさ、香川らしさに溢れた物と考え、和風のカードに中国語でメッセージを書いたり、世界中で香川だけに産出するサヌカイトを贈ったりした。他にも、中国語で歓迎の意を表す看板を作成したり、中国語表記の案内板を作成したりした。

(3) 訓練内容の精選

日本の進んだ防災対策を学ぶために来られるので、どの訓練を実施するかについては検討を重ねた。その結果、「避難所設営訓練」、「バケツリレー給水訓練」、「AEDを使用した心肺蘇生訓練」、「被災者救出訓練（クラッシュシンドローム対策を含む）」、「炊き出し試食（おにぎり）訓練」の5つにしぼった。

「AEDを使用した心肺蘇生訓練」は、人工呼吸と心臓マッサージの仕方を学ぶとともに、AEDの使用に慣れてもらうことがねらいである。また、「被災者救出訓練（クラッシュシンドローム対策を含む）」では、日本でもまだ馴染みの少ないクラッシュシンドロームについて知ってもらうことを第一のねらいとし、あわせて、クラッシュシンドロームが疑われる場合の対処法について体験してもらおうと考え取り入れた。さらに、「おにぎり」という食べ方があることを知らない中国の子どもたちに、簡単に作れておいしく食べられる「おにぎり作り」に挑戦してもらおうと思い、炊き出しをただ食べるのではなく、自分たちで作るという体験を取り入れるようにした。

(4) その他配慮事項

限られた時間の中で（1訓練15分）、訓練の概要を説明し数十人の子どもが実際に体験するとなると、日本の子どもを対象とする場合でもかなり効率的に進めなければならない。それなのに、今回は中国の子どもにそれを行わなければならない。中国の子どもに訓練の目的とその方法を説明しなおかつ15分で訓練を終えるために、訓練の内容を表したパネルを準備し、各訓練場所に配置するようにした。パネルには、「訓練名」「目的および概要」「具体的な訓練の様子の写真とその説明（中国語）」



【訓練内容を示した中国語表記のパネル】

を記載した。後で聞いた話だが、このパネルは分かりやすく中国でも使いやすいと好評であった。あわせて、各訓練場所には通訳を配し、細かな指示を中国語で伝えてもらうようにした。

3. 合同防災訓練当日の様子

11月15日、一行を乗せたバスが到着した。体育館で対面式が行われ、両国国歌斉唱、中国日本双方の大人と子どもの挨拶が続いた後、グループ作りが行われた。

グループ作りの頃はまだお互いに緊張した面持ちであったが、中には習った中国語で会話し早々に打ち解けた感じになったグループもあった。

【避難所設営訓練】

最初の訓練は全員で避難所を作る訓練である。中国と日本の子どもと一緒に段ボールを運び、プラスチックの留め具で留めていくというシンプルな活動であるが、言葉がうまく伝えられないので、なかなか思うように進まない。しかし、身振り手振りで示したり手を取って教えたりするうちに、中国の子どもたちも要領を得、次々と避難所を組み立てていった。うまく組み上げた中国の子どもに拍手をしたり、組み上がった避難所の前でグループで記念写真を撮ったりする姿があちこちで見られ、なんとも微笑ましかった。



【協力してパネルを組み合わせる子ども】

【バケツリレー給水訓練】

バケツリレー給水訓練では中国と日本の子どもたちが協力して水を運ぶことができた。指導してくださった川西地区自主防災会の方の、テンポがよく気分を盛り上げるような指導のためか、知らず知らずのうちに子どもたちが声を掛け合いながら協力し、楽しそうに訓練を行っていた。



【バケツリレーに励む子どもたち】

【AEDを使用した心肺蘇生訓練】

呼吸や拍動の確認、言葉かけの方法、心臓マッサージの行い方、そしてAEDの使い方など学ぶことが目白押しの訓練である。この訓練では、中国の子どもに優先的に訓練を行ってもらい、本校の子どもは、補助や応援に回ることにした。心臓マッサージにしてもAEDにしても、中国の子どもにとっては初めてのことなので、最初はおそるおそる行っていたが、心臓マッサージを行うのに合わせて日本の子どもたちがかけ声を掛けて応援したり、AEDのパットを貼る場所を教えたりすることで、次第に熱心に訓練に取り組むようになってきた。それを見ていた交流団の団員（大人）や先生も積極的に心臓マッサージやAEDに取り組んでいた。



【心臓マッサージをする中国の子ども】

【被災者救出訓練（クラッシュシンドローム対策を含む）】

この訓練には二つの要素が含まれている。一つはジャッキや木材等を利用して倒壊物に挟まれている被災者を救助する方法を学ぶこと。そしてもう一つは、クラッシュシンドロームの概要とその見極め方および対応について学ぶことである。初めて防災訓練を行う中国の子どもにとっては、かなり高度な内容となるので、通訳の方数名についても、説明や具体的な動きなどについて細かく伝えてもらうようにした。この訓練では、中国と日本の子どもが力を合わせて、ジャッキを回して木材を持ち上げたり、担架で運んだりする姿が随所で見られ、言葉は十分通じなくても協力して被災者を救出することはできるのだと、子どもたちの姿から学ぶことができた。



【協力して瓦礫の下から被災者を救助】

【炊き出し試食（おにぎり）訓練】

訓練後は、待ちに待った食事である。しかし中国の子どもたちにとっては、ここでもおにぎりを作るという初めての体験に臨むこととなる。日本の子どもたちや川西地区自主防災会の方に手ほどきを受けながら、おにぎり作りにチャレンジした。中国の子どもたちは見よう見真似でおにぎりをつくり、美味しそうにほおばっていた。中には何個も作って食べる子どももいた。訓練とはいいながらも食事をしながら、子どもたちは中国語や英語で会話し、



【楽しく食事をする子どもたち】

お互いの交流を深めていった。「中国ではおにぎりを作る習慣がないんだって。」とか「中国の子どもはお椀を持ち上げないんで。」など食習慣に関する発見や、「中国語で『おにぎりおいしいですか?』と聞くと『おいしい』と答えてくれたんで。」など、日本の子どもたちは楽しそうに話してくれた。

4. 子どもたちが学んだこと

日本の子どもたちは、この中国の小学生との合同防災訓練から実に多くのことを学んだということが、一人ひとりの感想からみてとれた。そして何より、どの子どもも、この訓練ができてよかったと素直に喜びを表していることが嬉しかった。子どもの感想のベスト5は以下のとおりである。

言葉はうまく伝わらなかったけど、身振りや手振りで示すと分かってくれて協力し合えることが分かった。	38人
中国の友達はまじめで一生懸命に分かろうとしたり、積極的にくんれんをおこなおうとしたりしているところがすばらしかった。	12人
言葉の大切さが分かり、また伝わったときの喜びが心から分かった。中国語をもっと勉強すれば良かった。	9人
国や言葉が違うけど、仲良くなろうと努力すれば仲良くなれるし、友達になれて嬉しかった。	8人
ニュースなどで聞く限り中国にはよい印象をもっていなかったが、実際に一緒に活動してみると、そうではないと感じいい人ばかりだと思った。	4人

以下、子どもたちの感想の一部を抜粋して掲載している。

- 国や言葉の違う人と話すのはとても難しいけど、頑張れば伝わると感じたし、いろいろと教える力がついたと思う。
- 言葉はあまり通じなかったけど、手を握ってくれたり笑顔を見せてくれたりしてすごく嬉しかったです。握ってくれた手の温かさは今でも忘れません。中国の人はいい人だなあと思いました。
- 言葉は通じなくても、私がした行動などで分かってくれるということがすごかったです。
- たとえ言葉が全然通じなくても、力を合わせたら乗り越えられるということが分かりました。これからの防災訓練でも力を合わせて頑張っていきたいと思いました。
- 中国の友達は、言葉も通じなくて大変なのに活動に真面目に取り組んでくれて、言葉は分からないけどやる気を持った気持ちが伝わってきて、楽しそうにやってくれて良かったです。
- 中国の友達は防災訓練をよかったと思っていてくれると思います。理由は、バスに乗る前に中国語で「本当にためになりました。ありがとう。」と言われたからです。
- 言葉が分からないので説明するのが難しかった。でも、分かろうと必死に聞いてくれた。それを見て、中国には優しい人がたくさんいることを学びました。
- 言葉は通じなくても気持ちは伝わるということが分かりました。

5. 終わりに

今回の交流は、あらゆる面で意義ある訓練であったと思う。命を守る、命を助けるという共通の目的の下、中国と日本の子どもたちが十分言葉が通じないながらも心を通い合わせ様々な訓練を行うことができた。その中で、本校の子どもたちは、私たちが期待する以上のことを体験から学び取ることができたし、中国の子どもたちも同様に多くのことを経験することができたと思う。陝西省青少年交流団の張海濤団長も、「すばらしい交流ができた。この訓練の成果を持ち帰り、中国の小学校に広げていくのが私たちの使命だ。」と話されていた。

最後に、この合同防災訓練を開催するにあたり、貴重な体験の場を提供してくださったり細かな計画を立ててくださったりした、谷口英二課長補佐ならびに曾我部美夏主任主事など香川県国際課の皆様、中国語会話教室の講師や当日の通訳等でお世話になった、王東さん、権沛さん、権春美さん、住田翠さん、住田紫さん、そして、事前の準備に始まり当日の指導や炊き出しなど防災訓練の諸準備を行ってくださった、岩崎正朔会長はじめ川西地区自主防災会の皆様に、心より感謝とお礼の気持ちを申し上げます。ありがとうございました。

11月は多くの視察団と防災訓練を行いました。それらを少しご紹介します。

数々の視察研修

広島県呉市、和歌山県介護支援協会、愛媛県今治市防災士会、奈良県広陵町、高松市松縄地区と県内外から視察研修においでいただきました。

皆さん帰り際に「お身体」に気をつけて頑張ってほしいと激励をいただき、身に余るお言葉を頂戴しました。



中国陝西省の子供たちと防災訓練

更に、中国陝西省の小学生児童、三豊市立豊中中学校の生徒さん、琴平町、綾川町、坂出市内浜西地区の皆さんとの防災訓練。

楽しくもあり忙しい日々を送ることになりました。

編集後記

今月の防災減災の輪の原稿は、三豊市立豊中中学校と丸亀市立城辰小学校にお願いしました。

両校の校長先生、教頭先生、誠にありがとうございました。